

【参考資料 1】

ソマリア沖・アデン湾及びその周辺における日本籍船及び邦船社が運航する外国籍船等の
海賊被害状況（2007年～2011年※）

※2012年以降被害なし

2007年

番号	被害日時 (日本時間)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	10月28日 11:24頃	アデン湾	ハイジャック事案	船用金、乗組員の金品、 通信機器、及びPC	パナマ	6,253トン	ケミカル タンカー	23名 (韓国人2名、フィリピン人9 名、ミャンマー人12名)	ケミカル

2008年

番号	被害日時 (日本時間)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	4月21日 10:10頃	アデン湾	航行中の 追跡事案	船体の左舷船尾に被弾 (乗組員に被害なし)	日本	150,053 トン	原油 タンカー	23名 (日本人7名、フィリピン人 16名)	なし
②	7月15日 19:45頃	アデン湾	航行中の 追跡事案	船橋付近に被弾 (乗組員に被害なし)	パナマ	11,590トン	ケミカル タンカー	23名 (韓国人3名、ミャンマー人 20名)	ケミカル
③	8月23日 17:50頃	アデン湾	航行中の 追跡事案	船橋付近に被弾 (乗組員に被害なし)	パナマ	14,103トン	一般貨物 船	20名 (全員フィリピン人)	工業用資 材・ 機械類等

2009年

番号	被害日時 (日本時間)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	3月22日 22:10頃	ソマリア沖	航行中の 追跡事案	レーダーマスト等に被弾 (乗組員に被害なし)	ケーマ ン諸島	13,038トン	自動車 運搬船	18名 (全員フィリピン人)	自動車

2010年




番号	被害日時 (日本時間)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	4月5日 21:00頃	アデン湾	航行中の 追跡事案	船体後方左舷側及びデッ キに被弾(乗組員に被害 なし)	パナマ	98,747トン	コンテナ 船	24名 (全員フィリピン人)	コンテナ
②	4月25日 11:15頃	インド洋	航行中の 追跡事案	デッキに被弾 (乗組員に被害なし)	パナマ	159,929 トン	原油 タンカー	27名 (インド人12名、フィリピン 人15名)	原油
③	10月10日 14:53頃	ケニア モンバサ沖	ハイジャック 事案	2011年2月解放	パナマ	14,162トン	多目的船	20名 (全員フィリピン人)	鋼材
④	10月28日 04:30頃	インド洋	航行中の 追跡事案	船橋付近に被弾 (乗組員に被害なし)	香港	161,045 トン	原油 タンカー	27名 (中国人25名、バングラデ シュ人1名、ミャンマー人1 名)	原油
⑤	11月20日 12:10頃	インド洋	航行中の 追跡事案	煙突に被弾 (乗組員に被害なし)	パナマ	105,644 トン	コンテナ 船	24名 (インド人5名、フィリピン人 18名、バングラデシュ人1 名)	コンテナ
⑥	12月13日 20:22頃	アデン湾	航行中の 追跡事案	船橋窓破損 (乗組員2名軽傷)	パナマ	8,259トン	ケミカル タンカー	21名 (韓国人2名、フィリピン人 19名)	ケミカル



2011年

番号	被害日時 (日本時間)	被害場所	概要	被害	船籍	総トン数	船種	乗組員	積荷
①	3月5日 21:00頃	オマーン沖	乗り込まれ 事案	機器類の損傷 (乗組員に被害なし)	バハマ	57,462トン	原油 タンカー	24名 (クロアチア人2名、モンテ ネグロ人2名、ルーマニア 人2名、フィリピン人16名)	燃料油
②	9月28日 21:30頃	紅海	航行中の 追跡事案	船体の左舷側に被弾 (乗組員に被害なし)	パナマ	16,222トン	ケミカル タンカー	24名 (全員バングラデシュ人)	ケミカル

【参考資料 2】

自衛隊の派遣部隊による対処事案の概要（2012年以降）

番号	事案の概要
1	<p>2012年4月21日、警戒監視中のP-3C哨戒機が不審なスキフ*（乗員6名、はしご2本、船外機2機、ポリタンク多数、漁具なし）を発見、周辺航行中の船舶に一斉通報するとともに、バーレーンの連合海上部隊司令部に通報。連合海上部隊司令部における調整の結果、近傍に展開中の韓国艦艇が搭載へりを発艦し当該スキフに対応を開始したため、P-3C哨戒機は警戒監視任務に復帰した。</p> <p>※小型平底船</p> 
2	<p>2012年4月28日、警戒監視中のP-3C哨戒機が不審なスキフ（乗員8名、梯子1本、船外機2機、ポリタンク多数、漁具なし）を発見、周辺航行中の船舶に一斉通報するとともに、バーレーンの連合海上部隊司令部に通報。P-3C哨戒機は、引き続き当該スキフの監視を実施し、当該スキフがダウ船*に接舷し乗員が移動しているのを確認。連合海上部隊司令部における調整の結果、近傍に展開中の韓国艦艇が当該スキフに対応する旨の通報を受けたため、P-3C哨戒機は警戒監視任務に復帰した。</p> <p>※アラビア海・インド洋で航行する帆船</p> 
3	<p>2012年6月18日、商船が海賊から攻撃を受けているとの情報を受け、警戒監視中のP-3C哨戒機が現場に急行したところ、不審なスキフ（乗員6名、船外機2機、ポリタンク多数、梯子らしきものを搭載）を発見。近傍航行中のロシア艦艇に当該スキフの情報を通報したところ、ロシア艦艇は搭載へりを発艦して対応を開始。近傍航行中の米艦艇も、搭載へりを発艦して対応を開始したため、P-3C哨戒機は米艦艇とも情報交換を実施し、警戒監視任務に復帰した。</p> 

<p>4</p>	<p>2014年1月18日、アデン湾東部を航行中の民間船舶がダウ船及びスキフに襲撃されているとの情報を受け、護衛活動中の護衛艦「さみだれ」が搭載ヘリを発艦して現場に急行させたところ、不審なダウ船及び曳航されているスキフを発見。当該ヘリは当該ダウ船の動向監視を実施し、第151連合任務部隊司令部に情報提供を行った後、元の任務に復帰した。</p> <p>引き続き、アデン湾を警戒監視中のP-3C哨戒機が当該ダウ船の動向監視を実施し、第151連合任務部隊司令部に情報提供を行った。その後、同司令部における調整の結果、現場海域に向け航行中の仏艦艇が搭載ヘリを発艦して対応を開始したため、P-3C哨戒機は当該仏艦艇に対応を引き継ぎ、警戒監視任務に復帰した。</p> <p>なお、当該仏艦艇は当該ダウ船に対して立入検査を実施。海賊らしいソマリア人5名が投降。当該ダウ船（インド籍船と判明）の乗員を解放した。</p>	 
<p>5</p>	<p>2017年4月8日深夜、アデン湾の国際推奨航路において貨物船が海賊に乗っ取られた可能性があるとの情報を受け、第151連合任務部隊司令部と調整し、派遣海賊対処行動航空隊のP-3C哨戒機がジブチから現場に急行し、9日午前まで当該貨物船の動向監視を行った。</p> <p>現場に到着したP-3C哨戒機は、当該貨物船と無線通信を行い、すでに当該貨物船は海賊に乗り込まれていること、乗員19名は全員が船内の避難区画に避難し人質とはなっていないことを確認し、第151連合任務部隊に情報提供を行い、数時間にわたる当該貨物船の動向監視の後、現場海域に到着した複数の艦艇に対応を引き継ぎ、ジブチに帰投した。</p> <p>なお、当時、自衛隊の福田海将補が司令官を務めていた第151連合任務部隊司令部が、第151連合任務部隊の各国部隊との連絡調整に加え、EU海上部隊等と緊密に連携して対応し、当該貨物船の乗員は他国の艦艇により救出された。</p>	

6	<p>2023年11月26日、イギリスの会社が運航するリベリア船籍タンカー「CENTRAL PARK (セントラルパーク)」がアデン湾において何者かに乗っ取られたとの情報を受け、海賊対処部隊の海自 P-3C 及び護衛艦「あけぼの」が現場に急行し、米軍艦艇「メイソン」及び韓国艦艇「ヤン・マンチュン」と共に警戒監視・情報収集を行いつつ、海賊対処を任務とする第151連合任務群に対し迅速に現場で得た情報を提供する等の対応を実施した。</p>
7	<p>2023年12月16日、ブルガリアの会社が運航するマルタ船籍の貨物船「RUEN (ルーエン)」が、アラビア海において海賊に乗っ取られたとの情報を受け、海賊対処部隊の護衛艦「あけぼの」が当該船舶に対する情報収集及び動静監視を行い、海賊対処を任務とする第151連合任務群に対し現場で得た情報を提供する等の対応を実施した。なお、当初は当該船舶の動静監視を護衛艦「あけぼの」が対応し、その後、スペイン海軍艦艇「VICTORIA」に対応を引継ぎ、元の任務に復帰した。</p>

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。